

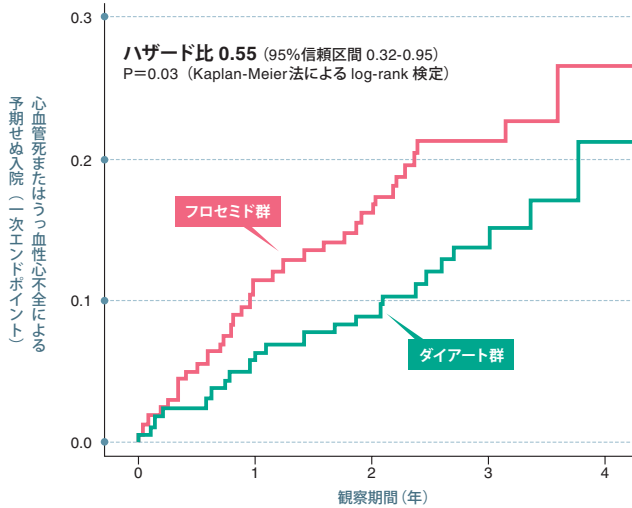
ダイアート[®]錠30mg 錠60mg をご処方される先生方へ

ダイアートは、長時間作用型のループ利尿薬です

NYHA 心機能分類II-III度のうっ血性心不全患者さんで、短時間作用型ループ利尿薬と比較して「生命予後を悪化させない」という結果が得られました。(J-MELODIC 試験より)

Masuyama T, et al. Circ J 2012;76(4):833-842

J-MELODIC 試験における用量設定



(Masuyama T, et al. Circ J 2012;76(4):833-842)

- 対象 うっ血性心不全患者 320 例 (NYHA 心機能分類II-III度)
- 試験方法 前向き無作為化オープン比較試験として、ダイアート(30~60mg/日)投与群 160 例、フロセミド(20~40mg/日)投与群 160 例に分け、2年間継続投与して各群の予後を検討
- 結果 心血管死またはうっ血性心不全による予期せぬ入院(一次エンドポイント)では、ダイアート群のフロセミド群に対するハザード比は 0.55 (95%信頼区間:0.32-0.95, P=0.03) で有意であった。
- 副作用 ダイアート群で低カリウム血症 6 例、低血圧 1 例、フロセミド群で低カリウム血症 2 例、ジギタリス中毒 1 例、発疹 1 例、関節炎 1 例がみられたが、両薬剤間で有意な差は認められなかった。(Wilcoxon 順位和検定)

「体重(±1kg以内)」

を目安に用量調節しています



Kuzuya F, et al. Int J Clin Pharmacol Ther Toxicol 1984;22(6):291-299

ダイアート処方時の注意点

1カ月~2カ月間は「体重」「血清カリウム値」にご注意ください

禁忌(次の患者には投与しないこと)

1. 無尿の患者[本剤の効果が期待できない。]
2. 肝性昏睡の患者[低カリウム血症によるアルカローシスの増悪により肝性昏睡が悪化するおそれがある。]
3. 体液中のナトリウム、カリウムが明らかに減少している患者[電解質失調を起こすおそれがある。]
4. テルフェナジン又はアステミゾールを投与中の患者[併用によりQT延長、心室性不整脈を起こすおそれがある。また、類薬でテルフェナジンとの併用によりQT延長、心室性不整脈を起こしたとの報告がある。]
5. スルフォンアミド誘導体に対し過敏症の既往歴のある患者

患者さまへの「ダイアートの服用」について下記の指導箋を別途作成しております

(A5 版指導箋)

兵庫医科大学内科学循環器内科
主任教授 増山 理先生 監修

ダイアート®錠を服用される方へ

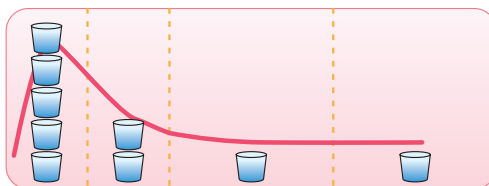
ダイアートは、体にたまった余分な水分を排泄し、
浮腫・息切れを取り除く「利尿薬」です



「利尿薬」の変更における注意点

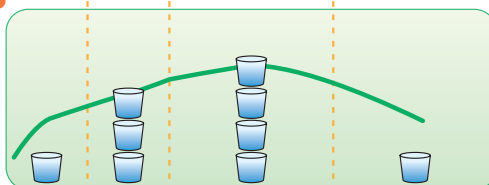
トイレのタイミングが変わります

短時間作用型
利尿薬



比較的**すぐ**に
おしっこが出ます

長時間作用型
利尿薬
ダイアート



比較的**ゆっくり**
おしっこが出ます



1日の尿量は、
今までのお薬と変わりません。

※お薬の変更後、体調に不具合を感じた場合は担当医師・薬剤師にご相談ください。

2012年5月作成

DIA-156 84921 WK0512



製造販売元(資料請求先)
株式会社 三和化学研究所
名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631
●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

2012年5月作成

DIA-157 84922 WK0512